

地域子育て支援拠点における「安心感の輪」 子育てプログラムの効果検証 (中間報告)

立命館大学 佐 野 さやか

Examining the effectiveness of The Circle of Security Parenting Program in child-rearing support provided by local governments

Ritsumeikan University, SANO, Sayaka

要 約

「安心感の輪」子育てプログラムは、アタッチメント理論に基づいて開発された子育て支援プログラムである。近年世界各地で実践され、参加者の養育行動等に効果が示されている。日本でも育児ストレスの減少等の効果が示されている他、特に児童虐待の予防や早期支援の観点から地方自治体の子育て支援事業における一層の活用が期待されている。しかしながら、そのような現場における「安心感の輪」子育てプログラムの実践についての検討は不十分である。そこで本研究では、ある地域において実践された「安心感の輪」子育てプログラムへの参加者を対象に育児ストレスの程度や養育行動を調査し、プログラム参加によってそれらに変化が生じるかを調査することとした。

【キーワード】「安心感の輪」子育てプログラム、子育て支援、育児ストレス

Abstract

The Circle of Security Parenting Program (COSP) is a parenting support program based on attachment theory. In recent years, it has been implemented worldwide and has demonstrated positive effects, including improvements in parenting behaviors. In Japan, the program has also been shown to reduce parenting stress. Furthermore, it is expected to be increasingly utilized in child-rearing support provided by local governments, particularly for child abuse prevention and early intervention. However, few studies have examined the effects of COSP in such settings. Therefore, this study investigated changes in parenting stress and parenting behaviors following participation in COSP implemented in a certain local government.

【Keywords】 the Circle of Security Parenting Program, parenting support, parenting stress

問題と目的

近年、児童虐待発生件数はもとより、子育てに対する不安を抱える家庭の数は増加の一途にある。そのため、子育て支援を充実させることによって養育者が安心して子どもを産み育てやすい社会を作ることが、わが国における喫緊の課題となっている。

子どもの発達にとって重要だとされているものの一つとして「アタッチメント」が挙げられる。発達心理学におけるアタッチメントとは、特に危機的場面において特定の他者に近接し、安全・安心を得ようとする人間の傾向のことをいう。そして、養育者との間でどのようなアタッチメントを経験するかが、その後の人格形成の基盤になることが知られている。

このような知見を背景にした実践的プログラムとして、The Circle of Security プログラムや The Circle of Security Parenting Program が開発され、世界各地で実践されている。日本でも北川他(2013)により『『安心感の輪』子育てプログラム』(以下、COSP)として翻訳され、改訂を経つつ(北川他, 2022)、昨今では社会的養護を含む幅広い現場で様々な対象者に提供されている。特に児童虐待の予防や早期支援の観点から、地方自治体の子育て支援事業における一層の活用が期待されているところである。

COSP は、8回のセッションから構成されるプログラムである。通常週に1度の頻度で養育者が集まり、ファシリテーターとともに心理教育用の映像資料を視聴しながら自身の育児について内省をする。これまでの研究により、COSPに参加した養育者は、子どもの苦痛に対して非支持的対応をすることが少なかったことや、子どもの実行機能が高かったことが示されている(Cassidy et al., 2017)。また日本でも、養育者の育児ストレスの軽減や(Kitagawa et al., 2022)、自閉スペクトラム症児を育てる養育者の自尊心や精神的健康の改善(Kubo et al., 2021)が示されている。ただし、これらは大学等の研究機関において実施されたものである。Berlin et al. (2016)が、発達早期のアタッチメント改善のための介入プログラムは、大学などでの研究機関で厳密に実施されてエビデンスが蓄積される段階から地域の支援者によってコミュニティレベルで実践される段階になっていると指摘するように、今後は地方自治体の子育て支援拠点におけるCOSPの実践について、その効果を検討することが1つの課題となっている。

そこで本研究では、ある地域の地方自治体の子育て支援拠点におけるCOSPの実践に参加した養育者を対象として、COSPに参加していない養育者と育児ストレスの程度や養育行動について比較することによって、COSPの効果を検討することとした。

方 法

対象：

支援群：X～X+1年度、A市において開催されたCOSPに参加した養育者、約60名を予定している。A市ではCOSPを開催することを市の広報誌等を通じて案内し、市内に居住する養育者が自主的

に参加を申し込む形を取っている。COSP への参加条件としては主に就学前の子どもを育てている養育者であること、および 8 回のプログラムに継続的に参加できることとしており、1 グループあたり 8 名ほどが参加する。研究にあたっては、参加者に対して研究の趣旨を説明し、研究協力の同意を得た養育者を対象とする。

対照群：民間の調査会社に登録しているモニターのうち、研究協力に同意した養育者、約 60 名を予定している。調査画面に研究趣旨等に関する説明を提示し、研究に同意する方のみ回答をしてもらう。

調査内容：

フェイス項目として、子どもの年齢、養育者の年齢、子どもの性別、養育者の性別、子どもとの続柄（第何子か）を尋ねる。加えて、以下 2 つの質問紙を用いる。

1 つ目が、PSI 育児ストレスインデックス ショートフォーム（PSI-SF）（兼松他，2015）である。これは養育者の育児ストレスについてアセスメントできる尺度であり、子どもの側面 9 項目、親の側面 10 項目の計 19 項目から構成される。得点が高いほどストレスが高いことを意味する。

2 つ目が Coping with Toddler's Negative Emotion Scale 日本語版（CTNES）（小西，2016）である。これは、子どもが否定的感情を表す 12 の場面に対する親の養育行動を測定するための尺度である。「困惑反応」、「罰する反応」、「矮小化反応」、「感情表出を促す（反応）」、「情動焦点反応」、「問題焦点反応」「要求を通す反応」の 7 つの下位尺度、計 82 項目から構成される。

本研究ではこれらの質問紙について、支援群には COSP への参加前後に回答を求めることとする。対照群には、COSP が約 8 週間（2 か月間）のプログラムであることを踏まえ、2 か月間の期間を空けて 2 度 web 上で回答を求めることとする。いずれの質問紙も、複数の子どもを養育している場合は最も年齢が若い子どもについて回答してもらうよう案内する。

なお、COSP の効果検証にあたっては COSP が適切に実施されていることが必要である。そのため、COSP 実施者は毎回 fidelity コーチによるコーチングを受け、実践上の指導や助言を受ける。

倫理的配慮：

本研究は、立命館大学倫理審査委員会より承認を受けている。

現在の進捗状況

支援群については、予定通り COSP を順次実施しデータを収集している。対照群については、現在 1 回目の web 調査を実施したところであり、近日中に 2 回目の web 調査を行う予定である。

引用文献

Berlin, L. J., Zeanah, C. H., & Lieberman, A. F. (2016). Prevention and intervention programs to support early attachment security: A move to the level of the community. In Cassidy, J., & Shaver, P. R. (Eds.), *Handbook of attachment. 3rd edition* (pp.739-758). Guilfor Press.

- Cassidy, J., Brett, B. E., Gross, J. T., Stern, J. A., Martin, D. R., Mohr, J. J., & Woodhouse, S. S. (2017). Circle of Security-Parenting: A randomized controlled trial in Head Start. *Development and Psychopathology*, 29, 651-673.
- 兼松 百合子・浅野 みどり・荒木 暁子・荒屋敷 亮子・市原 真穂・大橋 幸美・佐藤 奈保・白畑 範子・奈良間 美保・廣瀬 幸美・古田 恵香・丸光 恵・山口 知香枝 (2015). PSI 育児ストレスインデックス手引 2 訂版. 一般社団法人雇用問題研究会
- 北川恵・安藤智子・松浦ひろみ・岩本沙耶香 (訳) (2013). 「安心感の輪」子育てプログラムマニュアル 日本語版 1.0 (Cooper, G., Hoffman, K., & Powell, B. (2009). Circle of Security Parenting A Relationship Based Parenting Program Facilitator DVD Manual 5.0)
- 北川恵・安藤智子 (監訳) (2022). 「安心感の輪」子育てプログラム (COSPTM) ファシリテーターマニュアル日本語版 2.0 2022 年改訂版 (Cooper, G., Hoffman, K., & Powell, B. (2018). Circle of Security Parenting A Relationship Based Parenting Program Facilitator DVD Manual 2018 revision)
- Kitagawa, M., Iwamoto, S., Umemura, T., Kudo, S., Kazui, M., Matsuura, H., & Mesman, J. (2022). Attachment-based intervention improves Japanese parent-child relationship quality: A pilot study. *Current Psychology*, 41, 8568-8578.
<https://doi.org/10.1007/s12144-020-01297-9>
- 小西 優里絵 (2016) 親のアタッチメントスタイルと養育行動が子どもの行動特性に与える影響. 保育学研究, 54 (2), 181-192.
- Kubo N., Kitagawa, M., Iwamoto, S., & Kishimoto, T. (2021). Effects of an attachment-based parent intervention on mothers of children with autism spectrum disorder: preliminary findings from a non-randomized controlled trial. *Child Adolescent Psychiatry and Mental Health*, 15, Article 37.
<https://doi.org/10.1186/s13034-021-00389-z>